

## 喜 怒 哀 楽

12-1  
Vol.101

「喜怒哀楽」は、文芸を楽しむ方々の活力の源を目指し(株)ミューズ・コーポレーション喜怒哀楽書房が隔月発行している情報誌です。

## ここに響くことば

新潟県糸魚川市出身の批評家・随筆家若松英輔氏の著書からここに響いた言葉を抜粋してご紹介します。

大切に思う人との別離はときに、耐えがたい悲しみとなる。しかし、そう感じる事ができるのは、そこまで愛おしいと感じる相手に出会えているからだだろう。出会うことがなければ、別れは存在すらしない。(中略)もし、かつての自分に何か伝えることができるのなら私は、よろこびは、悲しみという土に咲く花だと言うかもしれない。

——生きていくうえで、  
かけがえのないこと——

(重紀書房)より抜粋



## ●若松英輔

1968年生まれ、慶應義塾大学文学部仏文科卒業。

2007年「越知保夫とその時代 求道の文学」にて第14回三田文学新人賞評論部門当選。

2016年「叡知の詩学 小林秀雄と井筒俊彦」にて第2回西脇順三郎学術賞を受賞。

温古知新 ⑤  
「菜根譚」25

年末を迎え、今年も終わりに近づいて参りましたね。皆様どんな年になりましたか？さて、お久しぶりに「菜根譚」をお届けいたします。

声妓も晩景、良に従えば、一世の胭花、碍げ無し。貞婦も白頭に守りを失わば、半生の清苦、俱に非なり。語に云う、「人を看るには、只後の半截を看よ」真に名言なり。

(歌を唄って酒席を取り持つような女性も晩年に良縁に恵まれれば、過去は何の妨げにならない。貞節な女性が白髪になってから道を踏み外せば、苦労した半生は水泡に帰してしまふ。ことわざに、「人の生涯を評価するには、後半の半生を見れば十分」とあるが本当に名言である。)

人生の後半、いかに生きるかが大事なのですね。

平民も肯て徳を種え恵みを施せば、便ち是れ無位の公相なり。士夫も徒らに権を貪り寵を市らば、竟に有爵の乞人と成る。

(庶民でも進んで徳の種を撒いて社会に恵みを与えれば、公には地位は無いが天子の補佐官のようなものである。公的に立派な地位にあっても、権力を振るいその恩恵にあずかろうとすれば、地位はあっても乞食

のようなものである。)

生まれや地位に関係なく、社会貢献することが本当に良い人生と言えるのでしょうか。

祖宗の徳沢を問わば、吾が身に享くる所の者はなり。当に其の積累の難きを念うべし。子孫の福祉を問わば、吾が身に貽す所の者、是なり。其の傾覆の易きを思うことを要す。

(先祖が遺した恩恵とは何かと問うならば、自分が今ある状態のことである。それを積み重ねてゆくことが重要だということを考えねばならないのである。子孫の幸せとは何かと問うならば、自分が残そうとしているものことである。その傾き易く倒れ易いことを思っておかなければならないのだ。)

今あることに感謝し、これからのことを考える。常に一生懸命生きていくことが未来につながるのでしょうか。

前回は一回お休みさせていただきましたが、心機一転、また皆様にたくさんのことをお伝えできればと思っております。少しでも、皆様の助けになりましたら幸いです。また、よろしく願います！(古川久美子)

# 第10回 一茶・山頭火 俳句大会 本行寺

(東京都・荒川区)

11月10日(土)、月見寺として有名な日暮里の本行寺にて第10回一茶・山頭火俳句大会が開催されました。当日は汗ばむほどの陽気に恵まれ、9名の選者と150余名の参加者で本堂も満員の大盛況。各人、境内や周辺を吟行し投句を済ませると、午前中は国文学者で信州大学名誉教授、「岳」主宰の宮坂静生氏による「兜太と一茶」と題した1時間強にわたる熱量の高い講演がありました。午後からは、本日の426句から各選者の特選1句と入選7句の表彰、選評と続きます。

伊藤伊那男(「銀漢」主宰)選

●特選

その中に兜太のこゑも寺障子 昭子

今年亡くなられた兜太先生も2年程前までこのお寺で一緒に選者をつとめた。隣で選をしていたがスピードが非



▲「兜太と一茶」についてエネルギーに語る宮坂静生氏

常に速く、お昼の志乃多寿司も1つだけ残して全部食べていた。これは余談だが、その先生をこの寺で偲ぶという句であり、兜太のこゑもの「も」の中には、村上護先生や一茶、一遍上人、この方たちも入っているという意味で「も」を使ったところがうまい。

一葉の寂しき恋や一の酉 健治

襟巻や別れし数の歳重ね 湖童

一茶忌のふぐりにしみる湯の加減 卓

月見寺の駅は北口しぐれけり 三里

告白にルビふるやうや息白し 美恵子

己が影伸び切る迄を冬耕す 大和

小鳥来る弾かぬピアノの調律師 和夫

井上弘美(「汀」主宰)選

●特選

◎一本の音にはなれず冬の滝 大和

見た瞬間、入ると思った句。滝にも四季が巡り、冬の滝はやがて枯れ枯れになり凍て滝となる。一本の音として水を落とすしきることができない滝を「一本の音にはなれず」と詠んだ。己の姿を全うできずに冬枯れの季節を迎えている、どこか無念でありながら自分のこれからの姿を受容している、そういう心情を感じ取った。写生句でもあり、写生を通して対象の本質に迫る作者の人生観、想いが宿った句。

海原は墓標なき墓はくてう来 恭子

星撒いて兜太呼び出す虎落笛 香

碧落を背に負ひたる鷹柱 香

古備前に残る火の疵冬銀河 昭子

胸に受く湯の残照沼太郎 香

連嶺の堅き連なり止り鮎 和慶

冬銀河神將站つを躊躇はず 和慶

齋藤慎爾(評論家・俳人)選

●特選

月宿し骨という字になりけり 正枝

骨という字には月が入っている、よく見ればそうだが気づかないもの。月の白さと骨の白さ、しかもそれを「月宿し」と詠むことにより、亡くなった

すべての人の鎮魂になっている。

狂ふてふ夢のひとつに返り花 千恵子

予言書の予言のごとく蘆を刈る 和湖

ミレーの絵を思い出す。時期が来れば農家の人は種を蒔いたり蘆を刈ったりするのだから、四季があるから種を蒔くのではなく、宇宙を司る予言書

によるという、宗教的な意味を感じる。

綿虫の生れしところを虚空とす 水香

万骨をふところを抱き山眠る 恵一

肅々とあけゆく地塘草のみぢ 秀子

死とは影見失ふこと秋の蝶 陽里

◎雪虫となり還り来よ荒凡夫 貴子

佐怒賀正美(「秋」主宰)選

●特選

◎雪虫となり還り来よ荒凡夫 貴子

荒凡夫は「俗物で平凡だけど自由に生きる」という、一茶が還暦のときの自省の言葉。兜太が共鳴したのも60歳のとき。荒凡夫という言葉を使った、二人に対する鎮魂の句。

谷中猫の千の足あと冬麗 虚舟

猫の街として知られる谷中。目の前の足あとを数えても千はないと思うが、見えなくなった足あとも思い描いていておもしろい。

狐火の水の被膜をすべりゆく 徳茂

火の山の煙まつし草相撲 京子

山頭火のわらじをさがす風連れ 政江



▲須弥壇を背に講評をする9人の選者

告白にルビふるやうや息白し 美恵子  
陽刻の白磁の翳り夕しぐれ 輝  
冬の蝶童のやうな一茶句碑 小馬々

鈴木節子(「門」主宰)選

●特選

◎一本の音にはなれず冬の滝 大和

これだ、と思った一句。自句に「一本の棒となりたる滝の前」という夏の句があるが、これは豪快な滝の前で硬直して棒のようになつた、という句。「一本の音にはなれず」の中七のフレーズが、冬の滝という季語とがちりと手を組んでいるようなまとめ方

でうまい。

今宵また枯木と詩をつむぐ星 徳茂

少し抒情的だが、今頃の状況をうま

くつかんでいる。



光年の時流るるや落葉焚 虚舟  
 万骨をふところに抱き山眠る 惠一  
 ◇平日の輝いてゐる花八ツ手 悠美子  
 大空の力が抜けて銀杏散る 千恵子  
 死とは影見失ふこと秋の蝶 陽里  
 ○雪虫となり還り来よ荒凡夫 貴子

ながさく清江（「春野」顧問）選

●特選

枯尾花いつもどこかに風見えて 蓮子  
 無風と思われる冬枯れの日、ふと見ると地平線の青い空に枯尾花がわずかに揺れている。花すすきだと少し重い  
 が、枯すすきがいい。「風見えて」と、見えてをつかんだところで枯尾花のそよぎを見せている。静かなこういう句が好き。入選は季語の効果がでている句を選ばせていただいた。

乱暴に姫の衣剥ぐ菊師かな 惠一  
 棟上げの親方と酌む紅葉かな 彬  
 棟上げのめでたさのなかで、晴れ渡った空の紅葉。

時雨来る金の継目の楽茶碗 水香  
 年暮るるいつか一人になる二人 松枝

中七下五はよくあるフレーズだが、年暮るるで最後の平成を詠った。

案内状真つ赤なりけり小春句座 隼人  
 今年のこの大会の案内は真つ赤な用紙で驚いた。今日に対する挨拶句。

この道が好きと渋柿熟すころ 英子  
 ひよんの笛あきらめし頃鳴り初む 大和

行方克己（「知音」主宰）選

●特選

◇平日の輝いてゐる花八ツ手 悠美子  
 花八ツ手は家の片隅に咲いているよ  
 うな地味な花で、それが平日という言



▲大勢の参加者で活気づく投句会場  
 当季雑詠2句1組（何組でも可）

葉と非常にマッチしている。作者は普段の日、平日を大切にしている人なのでしよう。

乱暴に姫の衣剥ぐ菊師かな 惠一

菊を作るときは丁寧に扱うが、役を終えしおれかかった菊、あるいは新しく手直しするときは、きつとこんなふうに剥ぎとる感じなのかと。

冬蜂のいきどほろしくいざりたる 卓

◆海賊になれぬ少年冬の鴨 和湖

昔の子どもは乱暴な子やガキ大将もいた。今の子どもたちは世の中に慣らされすぎて、海賊になれないような子が多い。

残照も押し込まれたる落葉籠 晴子

酒ほしき谷中日和や一茶の忌 基之  
 小春日の墓にウルトラマン供へ 弘子  
 一の酉ははの声してふり向きぬ 昭子

檜山哲彦（「りのの」主宰）選

●特選

河童の子木の美しぐれを帰りけり 英子  
 河童の子が夕暮れになって帰って

く、人間の子と遊んだ楽しかった一日を思い出しながら水中と丘へと。人間臭い河童の子に共感した。

海原は墓標なき墓はくても来 恭子  
 木洩れ日を水に潜らせ紙を濃く 純子  
 あんぱんのへそのくれなる神の留守 惠一

へそは穴があいている、その空虚さと、存在すべきものがないという神の留守の取り合わせ。

新しきひかり集めて白鳥来 幸子  
 夜の森の放下の音や猿酒 浩美  
 ◎一本の音にはなれず冬の滝 大和

◎一本の音にはなれず冬の滝 大和  
 小春日や運河は波をわすれざる 美智子

前の冬の滝の句と響きあうような句。波はいつも遠くまで行つては消えの繰り返し。運河を生き物として擬人化し、波をわすれざるという気持ちと小春日という明るく暖かい季語を合わせている。

水内慶太（「月の匣」主宰）選

●特選

◆海賊になれぬ少年冬の鴨 和湖

最近是我々のような若い人でなくても夢が持てるかもしれない平和な時代。少年が夢を膨らませて、いつかとても夢がなければそれは実現しないこと。少年たちの夢がいつまでもこの地球上にあつてほしいと切実に思う。

鴟はいたずらっぽくて、ひょうきんな面もある。一方で「鴟の贄」といつて昆虫や蛙などの獲物を捕らえると、それをとがった木の枝に刺し蓄えたりする残酷な面もある。子どもにもそう

いう一面があり、季語の斡旋がすばらしい。

繭籠る白さありけり冬桜 十二香  
 星撒いて兜太呼び出す虎落笛 香  
 火の山の煙まつしる草相撲 京子  
 地に万の翅のこゑあり月光裡 和子  
 鱗小波立ちぬ片淵月の鴨 輝

その中に兜太のこゑも寺障子 昭子  
 冬の小蝶童のやうな一茶句碑 小馬々  
 全体としては、兜太先生の句や周辺の吟行句が多く出ていたという印象。いつもなら10句くらいに絞るが、共感する句が多くてなかなか落とせなかつた。あれ、落としちゃつたなと選評を聞いて思う句もあつた（笑）。

◎は一茶山頭火俳句大会賞  
 ○は本阿弥賞  
 ◆荒川区長賞  
 ◇月見寺賞

★一茶と山頭火の句碑のある歴史あるお寺で、多くの俳人の選を受け講評が聞ける本大会。日暮里の駅からすぐ、かつ選者との距離も近く、気軽に参加できる有意義な会です。ぜひ来年は足を運んでみてください。楽しめること請合いです。

（木戸敦子）



▲一茶・山頭火の句碑がある日暮里の本行寺

# 本田智恵子様

『人生の軌跡—本田実・智恵子52年のあゆみ—』

(東京都・清瀬市)



▲人も動物も引き寄せる本田さん  
スマイル

**Q** 昨年八月、『人生の軌跡—本田実・智恵子52年のあゆみ—』を上梓した本田智恵子さん。紅葉が美しい季節を迎えた弥彦（新潟県）でお話をうかがいました。

**Q** 出版しようと思った経緯は？

昨年一月、夫である実さんの七回忌があり、私はなんて幸せな人生を主人に送らせてもらったのかなと思いつきました。その後木戸さんと菅さんに出会い、何か書けるかなと思ったのが二月。私と実さんの52年の軌跡をご本にしていたらどんなに幸せかと思ひ、木戸さんにお電話しました。それから一気に書いて、六月の終わりに原稿が仕上がったんです。

**Q** 出版のお話から、原稿をいただくまでがとて早くかったです。

書くことは好き。年代を追って思い出を書いていきました。主人も文章を書くのは得意でした。それぞれ勤めて

いた銀行の社内報に書いたものもとってありましたので、私の気持ちだけではなくて、主人の率直な気持ち、結婚してああでこうで…という思い出も一緒に載せていただきました。菩提寺に寄稿した文章等も入れ、早く仕上がりました。

**Q** この本にお二人の思い出が詰まっています。

いろんなことを二人三脚でやってきました。私はそろばんが得意でしたので、主人の仕事の手伝いをしたり、趣味の野球もスコアをつけたり、ボール拾いをしたり。どこへ行くにも連れていかれましたね。だから、大変でしたけど(笑)。主人は私が家にいないのが嫌いな人で、縁あって飼うことになった九官鳥には私の留守中「遅いね遅いね」と話しかけていたようです。その九官鳥が可愛くてね。「あつしはねえ」とか「ごめんください、ごめんください」と言ったり、こちらが面白いことを言うと「アハハハハ」と笑ったり。楽しい子なんです。

**Q** 九官鳥のほかにもカメ、たくさんのワンちゃんを愛情をもって飼われたことが書かれています。

カメのふくちゃん、主人と一緒に布団で寝ていました。捨て犬も引き取ったりして、犬のアルパムだらけ。実さんも動物の気持ちかわかる人でした。あるとき車庫の前で水を撒いたら驚いて水をかけてしまうでしょうけれど、実さんは「おっ来たか、おいしい水飲ませてやるから、ちょっと待ってろ」と言ってお水を溜めてあげるよう



▲表紙はそれぞれ愛犬とのツーショット。智恵子さんは愛犬たちにストレスを与えないよう、平常心を保つようにしていたそう。

▲思い出の写真や手紙がちりばめられている。

**Q** 優しいですね。

私海水浴で日焼けし火ぶくれで苦しんだときは、一晩中寝ないで冷やしながらくれました。それを見ていた私の母は「ああ、この人なら娘を任せて大丈夫」と思ったそうです。その母が入院したときは、一日も欠かさず見舞ってくれました。主人の親友が遠くの病院に入院したときは、私が運転をして毎週末三〇〇キロ往復してお見舞いをしました。そういうことで鍛えられましたから、今日新潟まで運転してきても疲れないのかしらね。

**Q** 昨年の二病氣も克服されました。いただいた命なので、少しは周りの

方にいいことをしようと思って一生懸命。できるだけのことはさせていたただいています。

**Q** 本をつくるうえで大変だったことは？

それは全然。上手に添削して直すところがあまりないようにしていただいたので、すごく楽しかったです。校正が3回来て、「これはこのように」と書けばその通りしてくださるわけですから本が完成。嬉しいんですけど、ありません、感激です。なにしろ子どもがいまませんし、私がいなくなってしまうたら、こんな夫婦がこの世の中にいたんだというのが分からなくなってしまうわけですよ。それだったら記念に皆さんのお手元に残していただけて、よかったと思っています。私にとってこの本は宝物。ご縁がなかったら出来ないわけです。

**Q** これからは？

終活で身辺を片付けないといけないと思っている、ものをつくったりするお稽古ではなく、勉強したりするほうをしたいですね。そして、ご縁を大切にして楽しんで人生を終えられたらと思います。

★「そのとき、こんなことがあったのよ」と笑った本田さんの表情が、新婚時代の写真と同じでした。その時やれるだけのことを精一杯やるのが後悔しない秘訣、と教えてくださった本田さん。チャーミングな笑顔は生命力にあふれていました。(菅真理子)

# 投稿作品

※誌面の都合上、300作品を超える投稿があった場合、掲載はお一人さま1作品、  
先着300名様までとさせていただきます。今回の投稿作品数は、250でした。  
※しめきり 2019年1月15日(火)まで ※作品は原稿どおりに掲載しております。

## 川柳

- 1 歳重ね時に三猿生きる術  
石原 岳(群馬県)
- 2 膝が丸まってズボンに味が出る  
丸山芳夫(東京都)
- 3 アメリカの未来占うトランプで  
橋本世紀男(東京都)
- 4 思い出の詰まった実家手放せず  
細川光子(栃木県)
- 5 いつの世も親の足跡深いまま  
鈴木義雄(福島県)
- 6 迎えまで百姓で行く心意気  
原 崇雄(埼玉県)
- 7 恋思い高じて祖国蛙の歌  
五十嵐陸博(新潟県)
- 8 平成の最後の干支は牙納め  
近藤富夫(東京都)
- 9 さまざまな医・薬・サプリどれが  
ほんと 阿部 至(埼玉県)
- 10 牙をむく天災地変平安に  
久保壽雄(北海道)
- 11 美味しさを愛と笑顔が倍にする  
小山恵美子(大阪府)
- 12 残り火があつて終活間延びする  
木村洋一(新潟県)
- 13 稲刈って藁塚作り昔なり  
濱田イサオ(福岡県)
- 14 大国に知らざあ聞かそおもいやり  
奥 那於子(大阪府)
- 15 朝早く老いに負けじと行く畑  
守屋高雄(岩手県)
- 16 「濡れ落葉」今じゃ呼び名も「わし  
も族」 長谷川庄二郎(千葉県)
- 17 亡き倅子想い出の中生きてる  
大橋絵代(千葉県)
- 18 百薬の長を友とし八十路生く  
久本にい地(岡山県)
- 19 秘中の秘なれば知りたい新元号  
目黒豊光(福島県)
- 20 てきばきと裁く夫に惚れたのに  
関本 守(新潟県)
- 21 香典が義理と見栄ゆれている  
岩崎政弘(岡山県)
- 22 老いたって夢はしっかり抱いてる  
西山知子(岡山県)
- 23 迷う事考え過ぎで進まない  
松田義登(福岡県)
- 24 奈良の秋痴漢も出れば痴女も又  
伏見の馬酒(京都府)
- 25 飽食の海で思考の芽が溺死  
鏡たか子(山形県)
- 26 語らふは君と異国の星月夜  
環 順子(東京都)
- 27 護國社の神門の香や終戦忌  
齋藤麥堂(新潟県)
- 28 鯛雲乗りて行きたや空の果て  
檜山柚子香(東京都)
- 29 秋茜風を乗り替へ夕空へ  
川口 襄(埼玉県)
- 30 戦死の碑渺茫として彼岸花  
中島光江(埼玉県)
- 31 風に寝て風に起こさる秋桜  
高崎登喜子(東京都)
- 32 魂の気配ただよふ月夜草  
すずき笑子(東京都)
- 33 秋あかねあなたの駅ならついてゆく  
望月謙一(東京都)
- 34 えのこ草和毛に触るる掌  
溝畑美代子(埼玉県)
- 35 十二月八日人間なんだ人間  
福岡 悟(東京都)
- 36 路地裏のそこはかとなし虫の声  
西條公雄(埼玉県)
- 37 月明り共に歩いて午前四時  
松田重信(埼玉県)
- 38 淑気満ち音無く進む能衣装  
津田卿雲(岡山県)
- 39 大男かけ下りて来し茸籠  
小島岳青(新潟県)
- 40 小春日やどこか音する花鋏  
村田吉雄(東京都)
- 41 初穀を焼けばとつぷり暮れにけり  
湯浅芳郎(岡山県)
- 42 晩秋やネオン輝く競馬場  
井原毬子(東京都)
- 43 旅先の妻は早起き合歓の花  
井上静夫(栃木県)
- 44 秋風の頬を撫で行く散歩みち  
道給一恵(埼玉県)
- 45 柿挟む棹伸ばしきりよろめきぬ  
青木涼子(埼玉県)
- 46 八十の秋朝のまな板音冴ゆる  
石尾曠師朗(東京都)
- 47 鳥海山錦紅葉の嶺白く  
古閑智子(神奈川県)
- 48 紅葉燃ゆまたきてもよし平林寺  
河野静子(埼玉県)
- 49 年金の独り暮しに鯛焼く  
山崎吉晴(群馬県)
- 50 ふるさとの海は平らか雁渡る  
橋本良子(埼玉県)
- 51 鉦叩五衛門風呂の長湯かな  
近藤薫也(千葉県)
- 52 ぼつねんと電話ボックス鳥渡る  
鈴木清子(埼玉県)
- 53 種採りの茄子かほそひも結びあり  
津布久信雄(東京都)
- 54 渡り鳥空を包みて潤して  
岩村 昇(神奈川県)
- 55 秋収む見渡す広きたんぼかな  
田中恵美子(山形県)
- 56 今昔の話の尽きぬおでん酒  
天野輝子(東京都)
- 57 平成を回顧し秋を惜しみけり  
大谷 茂(埼玉県)
- 58 水に放てば秋茄子の紺散らむ  
高松玲子(埼玉県)
- 59 濃い影の中が秋  
白松いちろう(千葉県)
- 60 民宿のみみじおろしで喰う秋刀魚  
佐々木素風(新潟県)
- 61 顔見世の文字高だかと思えて通る  
中田文子(大阪府)
- 62 千社札お初徳兵衛秋時雨  
居原田暹(大阪府)
- 63 暖かき紅茶に愛を込めて飲む  
湯浅暉子(石川県)
- 64 赤とんぼわれの歩みのはるか先  
竹本美美子(新潟県)
- 65 鉄重鈴右手左手秋冷ゆる  
吉里ひとみ(東京都)
- 66 釜炊きや赤子泣かせて今年米  
三津木俊幸(千葉県)

## 俳句

- 26 語らふは君と異国の星月夜  
環 順子(東京都)
- 27 護國社の神門の香や終戦忌  
齋藤麥堂(新潟県)
- 28 鯛雲乗りて行きたや空の果て  
檜山柚子香(東京都)
- 29 秋茜風を乗り替へ夕空へ  
川口 襄(埼玉県)
- 30 戦死の碑渺茫として彼岸花  
中島光江(埼玉県)
- 31 風に寝て風に起こさる秋桜  
高崎登喜子(東京都)
- 32 魂の気配ただよふ月夜草  
すずき笑子(東京都)
- 33 秋あかねあなたの駅ならついてゆく  
望月謙一(東京都)
- 34 えのこ草和毛に触るる掌  
溝畑美代子(埼玉県)
- 35 十二月八日人間なんだ人間  
福岡 悟(東京都)
- 36 路地裏のそこはかとなし虫の声  
西條公雄(埼玉県)
- 37 月明り共に歩いて午前四時  
松田重信(埼玉県)
- 38 淑気満ち音無く進む能衣装  
津田卿雲(岡山県)
- 39 大男かけ下りて来し茸籠  
小島岳青(新潟県)
- 40 小春日やどこか音する花鋏  
村田吉雄(東京都)
- 41 初穀を焼けばとつぷり暮れにけり  
湯浅芳郎(岡山県)
- 42 晩秋やネオン輝く競馬場  
井原毬子(東京都)
- 43 旅先の妻は早起き合歓の花  
井上静夫(栃木県)
- 44 秋風の頬を撫で行く散歩みち  
道給一恵(埼玉県)
- 45 柿挟む棹伸ばしきりよろめきぬ  
青木涼子(埼玉県)
- 46 八十の秋朝のまな板音冴ゆる  
石尾曠師朗(東京都)
- 47 鳥海山錦紅葉の嶺白く  
古閑智子(神奈川県)
- 48 紅葉燃ゆまたきてもよし平林寺  
河野静子(埼玉県)
- 49 年金の独り暮しに鯛焼く  
山崎吉晴(群馬県)
- 50 ふるさとの海は平らか雁渡る  
橋本良子(埼玉県)
- 51 鉦叩五衛門風呂の長湯かな  
近藤薫也(千葉県)
- 52 ぼつねんと電話ボックス鳥渡る  
鈴木清子(埼玉県)
- 53 種採りの茄子かほそひも結びあり  
津布久信雄(東京都)
- 54 渡り鳥空を包みて潤して  
岩村 昇(神奈川県)
- 55 秋収む見渡す広きたんぼかな  
田中恵美子(山形県)
- 56 今昔の話の尽きぬおでん酒  
天野輝子(東京都)
- 57 平成を回顧し秋を惜しみけり  
大谷 茂(埼玉県)
- 58 水に放てば秋茄子の紺散らむ  
高松玲子(埼玉県)
- 59 濃い影の中が秋  
白松いちろう(千葉県)
- 60 民宿のみみじおろしで喰う秋刀魚  
佐々木素風(新潟県)
- 61 顔見世の文字高だかと思えて通る  
中田文子(大阪府)
- 62 千社札お初徳兵衛秋時雨  
居原田暹(大阪府)
- 63 暖かき紅茶に愛を込めて飲む  
湯浅暉子(石川県)
- 64 赤とんぼわれの歩みのはるか先  
竹本美美子(新潟県)
- 65 鉄重鈴右手左手秋冷ゆる  
吉里ひとみ(東京都)
- 66 釜炊きや赤子泣かせて今年米  
三津木俊幸(千葉県)

- 67 目覚むれば昨日は過去と鶴の声  
堀木和子(大阪府)
- 68 どこで果つひとりは一入秋の風  
堅田秀子(東京都)
- 69 卒寿とふ口元ゆかし衣被  
川嶋法子(東京都)
- 70 男手に鳴らす厨の秋の水  
野木宗信(奈良県)
- 71 暴風雨過ぎて輝く秋の空  
平林義康(兵庫県)
- 72 「人肌」は妻のみぞ知る燭の酒  
長峰正晴(千葉県)
- 73 平成の終りを告げる除夜の鐘  
内河邦久(東京都)
- 74 曼珠沙華裏と表の顔もち  
大塚徳子(埼玉県)
- 75 秋の空屋根は静かに背伸びして  
水落重武(新潟県)
- 76 束かつぎ運ぶ重さや稲の秋  
杉原明子(静岡県)
- 77 深閑と水も空気も越の月  
上村元義(神奈川県)
- 78 夕暮やねぐら追はれし掠の群  
片山茂子(埼玉県)
- 79 吟行や先へ先へと秋の蝶  
星 一子(神奈川県)
- 80 百の柿剥きし日遠し父母恋し  
大阿久雅子(埼玉県)
- 81 毒茸裏返されて木の根道  
平山千江(岩手県)
- 82 日帰のバスのツアーや秋扇  
青木延子(埼玉県)
- 83 吾亦紅ゆれ止みて午後影小さし  
九法活恵(埼玉県)
- 84 ふるさとを離れて五十年柿渋し  
青木ケン子(埼玉県)
- 85 犬と子のははじかれ花野暮れにけり  
岩田 信(神奈川県)
- 86 リンゴ剥くシルクの花の散るやうに  
喜龍けん(滋賀県)
- 87 盆深し夜の高架駅十六日  
安部 哲(新潟県)
- 88 草の祭日暮の風にたちにつけり  
服部八重子(東京都)
- 89 逆らはず風に従ひ落葉掃く  
田中 昶(鳥取県)
- 90 いつしかに庭も色あせ秋になり  
杉村美保子(岩手県)
- 91 縁側に子猫居眠る小六月  
吉村充治(埼玉県)
- 92 秋の空塗る足場組む鳶職人  
梶 鴻風(北海道)
- 93 草紅葉「離れ」に馬の嘔し痕  
本庄準也(埼玉県)
- 94 からすうり提げて笑顔の小さき魔  
女  
関山恵一(神奈川県)
- 95 子等を呼ぶ声にも釣瓶落しかな  
小澤円梨(静岡県)
- 96 昼酒のいささか利きし端居かな  
佐藤よしと(北海道)
- 97 柿紅葉色を極めて風に乗る  
日名子春実(群馬県)
- 98 被曝禍に脅え八年冷ゆ脊柱  
有坂馨園(福島県)
- 99 有名人羽子板市に勢揃い  
松前邦広(千葉県)
- 100 爽やかやひたむきに生き八十路かな  
金子範子(高知県)
- 101 黄落の中の点晴赤信号  
今井勝子(新潟県)
- 102 背中押す木犀の香や検診日  
井田由利子(宮城県)
- 103 陽の名残鍋一杯の拔菜汁  
若月理依子(新潟県)
- 104 黴臭い乙三つある通信簿  
磯部 力(新潟県)
- 105 向日葵の陽へつぶやき始まる黄  
井上氣海(広島県)
- 106 柿の実や原風景を訪ねけり  
藤井春三(埼玉県)
- 107 小春日や麒麟の舌の長きこと  
寺内 侖(埼玉県)
- 108 星の飛ぶ宙の不思議よニュートリノ  
中野勝子(鹿児島県)
- 109 木犀の匂ふ小庭に曰くあり  
浦橋渴雪(兵庫県)
- 110 禅刹へ続く小道や曼珠沙華  
古谷 力(東京都)
- 111 野分過ぐ言葉は優し災害禍  
中山日出子(大阪府)
- 112 絵本から飛びたつてゆく鯨かな  
白戸麻奈(東京都)
- 113 や・かな・けり捨てつ拾いつ秋の夜  
鈴木公子(千葉県)
- 114 二白のふるまい餅のかほすの香  
中村康浩(福岡県)
- 115 閑居して客待ち顔ややや寒し  
大橋恒次(新潟県)
- 116 山峡に住み古りにけり十三夜  
佐野和彦(静岡県)
- 117 宝永山歴史探険初紅葉  
神 一男(静岡県)
- 118 柿熟るる村の外れの茅葺き家  
成田節子(山形県)
- 119 萩咲いて黄金色づく白神路  
斎藤博洋(秋田県)
- 120 さわやかな紅葉の風に筆はこぼ  
長谷部喜代子(大阪府)
- 121 江戸びとの好む新の字走りそば  
田野倉くにお(東京都)
- 122 栗ごはんがんばって剥く家族愛  
中澤寿美(神奈川県)
- 123 菊の香や阿弥陀如来は厨子の中  
間森 坦(兵庫県)
- 124 身に沁むや一挙一動希林逝く  
倉沢ひとみ(静岡県)
- 125 芭蕉忌の夕日入り込む壁の地図  
光成高志(千葉県)
- 126 陽に透ける緋の色が好き山紅葉  
仁藤ひろし(埼玉県)
- 127 ピッコロのひときは響く里祭  
竹下睦子(鹿児島県)
- 128 袖の道石積む祈り曼珠沙華  
杉本敬治(愛知県)
- 129 朝ぼらけ静かにさえる秋の月  
阿部徳夫(宮城県)
- 130 キンモクセイ母のほひがよみがへ  
り  
阿部澄江(宮城県)
- 131 秋祭り運河越えくる鉦太鼓  
大窪美代子(大阪府)
- 132 打掛けの鶴の羽はたく良夜かな  
一瀬正子(埼玉県)
- 133 世の変る四季変るなし山粧う  
木村 舳(山形県)
- 134 秋惜しむ今日はだれとも話せず  
若林卓宣(三重県)
- 135 旅人や描く一筋秋の空  
中川義彦(新潟県)
- 136 青い空尾花かれはて哀しいな  
五味田幸夫(東京都)
- 137 浅き冬黙してけさも街路掃く  
齊藤安弘(神奈川県)
- 138 帰り花別れし友の文よめば  
菅原キイ子(宮城県)

139 長編を読みきる夜長寝付かれず

岡村君枝(茨城県)

140 我もまた路傍の過客鶴来る

高垣勝代(大阪府)

141 銀髪にする勇氣なく冬に入る

清水君江(埼玉県)

142 生きるとは鳴き尽くすこと虫しぐれ

こんくにを(東京都)

143 島を発つ枇杷の花にも手を振つて

椋本望生(大阪府)

144 コイントスして初旅の行方かな

佐山苑子(埼玉県)

145 峡の子のひがな川面に鮎を追ふ

本間 進(新潟県)

146 明日のこと知るや知らずや虫の声

本間ミネ(新潟県)

147 子とつなぐ手の影長し小六月

伊藤 修(埼玉県)

148 敦盛の琵琶朗朗と秋の宿

豊田智恵子(新潟県)

149 ふとよぎる母との日日や秋の暮

柴田恵美子(北海道)

150 丑三つや全霊で聞く冬の音

安田芳江(茨城県)

151 豊の秋樹木希林の言の葉ある

富樫和子(山形県)

152 朝冷えや小さき錠剤転がりて

油谷博子(兵庫県)

## 短歌

153 亡き父の猫背そのまんま受つきし  
ガラスに映る今の私くし

渡部美代子(山形県)

154 こんな時ウニ養殖とイチゴかよ北  
方領土ロシアにやるのか

早坂紘司(北海道)



155 夜半に目覚め修院の庭に出でたれ

ば桐生の街は眠り居るらし

156 月下美人一夜の花と愛をし夜明

けの鶏よ心して啼け

157 夜通し果の母を探してたサキシマ

フヨウの幹の想い出

158 何もかも面倒だと思ふ日に栗百

粒を剥く自己矛盾

159 生きのびて残るキュウリのいとし

さよ水声かけて神無月なり

160 寡黙なる孫ゆえ祖父がおどけいる

湯気たちのぼる食卓のまえ

161 人生の喜怒哀楽を咬しめて妻と暮

すは右左口の郷

162 この夏の猛暑にどこで育ちしか

リーンリーンに癒されし秋

163 風の無き無人駅には雉子の来てひ

と声鳴きて去りゆく朝

164 この三年近しき友等十人も逝きま

しやせて指輪も落失

165 ペンを持ち畑に鋤切りクラブ振う

一日の右手湯に揉んでいる

166 満州に独り残した親友も石の下か

ら同じ月見る 守安幹男(岡山県)

167 白神のつく羽根の華風にのり幸わ

せ運び江戸川の家

168 充分に香り果して散りし花金木犀

の輪郭示す 夏井寛治(新潟県)

169 失言と嘘と隠蔽はびこれる神聖な

はずの国会議事堂

170 寒暖の差の去来する此の日頃夫の

挙動を目安となしぬ

171 細々と虫の音ひびく草むらに静か

にゆらく蛇の目草の花

172 面倒な世の中にする消費税軽減税

率混乱必至 坂元正憲(東京都)

173 雲巖寺小百合微笑む瓜腹橋朱色鮮

やか山門へ通じ

174 るこう草大風に耐へこの朝も色な

は冴えて秋日にいこふ

175 憧れの海兵さては予科練に僅か稚

かりしわが少年期

176 七年を経て取り出しの具体策出

せずデブリは炉底に潜む

177 時空超え再生の祈り伝えくる土偶

の世界に思いの探し

178 大空にワールドカップのラグビー

場柿ら落しの記念の試合

179 心まち弥彦のまつりなつかしいあ

いたき友にめぐりあいけり

180 孫二人小窓顔寄せ飛行機で初めて

の旅地図くつきりと

181 計報届く癖文字賀状もう読めぬ

るさと山河莫逆の友

182 日本語のたどたどしさもご愛敬コ

ンビニ店員「イラッシャイませね」

183 担当相つきつぎ代われど拉致被害

者救出なるのか平成の世に

184 晩秋の十時を過ぎた今もなお灯り

ともりしビルあちこちに

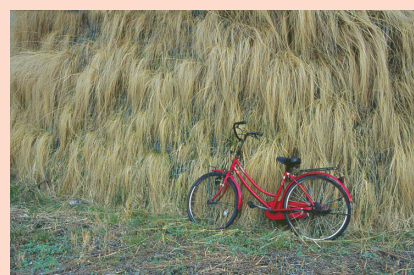
185 自転車の子が帰り来し秋山家

高崎登喜子(東京都)

186 かくれんぼ彼女はここかわらボッチ

石原 岳(群馬県)

こちらの写真を見て詠んでいただきま  
した。



(写真提供：中川三郎さん)

## フォトイック

- 187 スリラーの場面のよう無気味さよ  
橋本世紀男(東京都)
- 188 枯野原初恋隠す一歩かな  
福岡 悟(東京都)
- 189 独り居の数多の赤や八十の秋  
松田重信(埼玉県)
- 190 秋深し夕暮れせまる記念かな  
五十嵐陸博(新潟県)
- 191 郵便夫稲架に自転車昼餉時  
津田卿雲(岡山県)
- 192 稲架向かふラヴストローリー展開す  
有田裕子(北海道)
- 193 赤い自転車枯草山に彩添へて  
井原穂子(東京都)
- 194 逃走犯赤き自転車ここにあり  
青木日出男(群馬県)
- 195 見つけたよこんなところにワタシ  
チャリ 河野静子(埼玉県)
- 196 ススキが原赤い自転車の異邦人  
濱崎祥子(鹿児島県)
- 197 藁塚に放置自転車鎖錠無し  
山崎吉晴(群馬県)
- 198 自転車を止め恋人を待つ花野  
橋本良子(埼玉県)
- 199 秋深し銘画なるかは知らねども  
近藤薫也(千葉県)
- 200 秋の野や放置自転車バンクして  
津布久信雄(東京都)
- 201 乗り捨ての自転車一台野分中  
岩村 昇(神奈川県)
- 202 自転車置き秘密の基地へ本片手  
小山恵美子(大阪府)
- 203 風湧きてどっと寄せ来る尾花かな  
天野輝子(東京都)
- 204 サイクリング穂芒村で寝転べり  
居原田暹(大阪府)
- 205 宣伝の案山子を乗せて天然の美  
佐伯セツ子(香川県)
- 206 気を付けてお帰りよ二人乗り  
川嶋法子(東京都)
- 207 暇つぶし迷っているか寝ているか  
奥那於子(大阪府)
- 208 身隠して自転車隠さぬ忍ぶ恋  
長峰正晴(千葉県)
- 209 自転車を捨ててクルマに買い替える  
長谷川庄二郎(千葉県)
- 210 自転車を忘れし秋のかくれんぼ  
坪田勝秀(鹿児島県)
- 211 秋立つや赤い自転車忘れずに  
水落重式(新潟県)
- 212 吾が愛車守られぬたり野分あと  
片山茂子(埼玉県)
- 213 自転車も吾も一休み秋に入る  
星 一子(神奈川県)
- 214 自転車を置いて枯野を子は駆ける  
大阿久雅子(埼玉県)
- 215 天高し待ち合はせたる牧の道  
平山千江(岩手県)
- 216 郵便靴奪はれしまま冬来る  
九法活恵(埼玉県)
- 217 掛稲や不倫がひとつ配達夫  
安部 哲(新潟県)
- 218 乗り捨てし自転車に吹く秋の風  
梶 鴻風(北海道)
- 219 隠れんぼ草に隠れて置く二輪  
本庄準也(埼玉県)
- 220 自転車の主はいづこへ大枯野  
小澤円梨(静岡県)
- 221 街騒をのがれしばしの秋惜しむ  
佐藤よしと(北海道)
- 222 これなあにひとまわりして帰りま  
す 田中豊恵(新潟県)
- 223 少女待つ赤い自転車寂しそう  
松前邦広(千葉県)
- 224 みのる田を赤自転車でいせいよく  
高橋登志子(新潟県)
- 225 なぞめきし絵画の世界神の留守  
井田由利子(宮城県)
- 226 自転車で遠くの田圃にやって来た  
岩崎政弘(岡山県)
- 227 山積の稲に驚き雲隠れ  
宇都木安子(東京都)
- 228 夕映えてまだかよと待ちぼうけ  
藤井春三(埼玉県)
- 229 二輪置きお化け尾花に消えにけり  
寺内 信(埼玉県)
- 230 金風や赤い自転車だれのもの  
中野勝子(鹿児島県)
- 231 自転車の乗り捨てられし枯野かな  
佐野和彦(静岡県)
- 232 豊作や自転車置きて農作業  
神 一男(静岡県)
- 233 サイクリングここらでちよつと一休  
み 関原幸子(東京都)
- 234 自転車の寄つか、つて枯律  
光成高志(千葉県)
- 235 土手登りひとり慕うや彼のこと  
仁藤ひろじ(埼玉県)
- 236 銀輪のペダルの疲れた花芒  
竹下睦子(鹿児島県)
- 237 魔女を待つ赤い自転車さあ空へ  
小林恵子(大阪府)
- 238 どこいった早く出てこい日が暮れる  
阿部徳夫(宮城県)
- 239 淋しいよおいてきぼりにしないでよ  
阿部澄江(宮城県)
- 240 日本一周盗難車あり老獺な  
合田浩子(茨城県)
- 241 うら枯るる赤い自転車失踪します  
北野耕兵(千葉県)
- 242 先ず避難赤い自転車人質に  
村山徳英(埼玉県)
- 243 稲掛けや選挙も近し打ち合せ  
齊藤安弘(神奈川県)
- 244 晩秋や置き去り自転車誰を待つ  
岡村君枝(茨城県)
- 245 ぶらり来て赤蕪五つ引きしかな  
高垣勝代(大阪府)
- 246 藪の中密会ですか、トイレかな  
鏡たか子(山形県)
- 247 むかえ待つあなたのやさしさ信じて  
る 岩崎令子(大阪府)
- 248 小春日や自転車置きて魚釣  
山田楽山(埼玉県)
- 249 はざ掛けの主待ちわぶ自転車かな  
清水君江(埼玉県)
- 250 立話自転車畦に忘れられ  
本間 進(新潟県)

俳句・川柳募集!!



(写真提供…中川三郎さん)

上の写真から、自由にイメージし五七五(俳句か川柳)で表現してください。応募はアンケートハガキ投稿欄にて。お待ちしております!





「投稿作品で心に残ったものは？」の問いに、たくさんの回答をお寄せ頂きありがとうございました！その中で特に多くの評価を集めた作品と、それを選んだ理由の一部をご紹介します。  
※大賞と自句自解コーナーは年1回です。

◎俳句部門  
116 故郷は日に日に遠く秋彼岸

服部八重子(東京都)

・年齢を重ねる毎に生まれ故郷が恋しくなります。秋彼岸に胸が詰まりました。堅田秀子(東京都)・高齢化、核家族により、親子の縁うすれ、先祖に対する感謝の気持ち薄れて来ている点よく表現している。夏井寛治(新潟県)・ふるさとの親類も結婚式の簡素化で招待案内はなく連絡のみ。元気な内に話してみたいが、これも時代なのでしょう。本庄準也(埼玉県)・私も八十才を過ぎ高齢者となりこの句の気持が良くわかります。松前邦広(千葉県)ほか

13 芒原風のかたちに靡きけり

川口 襄(埼玉県)

・言い得て妙と感じ入りました。鈴木清子(埼玉県)・兵庫県の砥峰高原へ行ってきました。芒に压倒されこの句を読んで情景が思い出されました。中田文子(大阪府)・写生のきいた句です。芒原の大きさ、風の色よくわかります。平山千江(岩手県)・芒が「風のかたち」になびくという表現が良いと思います。関山恵一(神奈川県)

59 蟬の声共になきたき時もあり

青木ケン子(埼玉県)

・長い間生きていくといろんな事がありました。金子範子(高知県)・「なきたき時もあり」に共感しました。若月理依子(新潟県)・素直な表現に共感します。今年の猛暑は蟬の鳴き声が増して気になりました。中村久仁

子(京都府)・痛みをこらえている時などは将にこの心境です。阿部徳夫(宮城県)

◎短歌部門

126 「元気なの」只それだけの電話でも

声で通じる気持の嬉し

葦岸信子(東京都)

・遠くの友へも家で元気をいただける幸。私もかけて居ます。渡部美代子(山形県)・久し振りにあった時、電話した時、お互いの第一声は「元気だった？」の気づかい。杉村美保子(岩手県)・外出も半減し、電話が何より。声で元気がわかると、うれしいですね。田中豊恵(新潟県)・姉や妹には、いつも「元気？」と電話しおしゃべりをしてるので、気持ちわかります。関原幸子(東京都)

148 七年半過ぎて今なお見つからず家

こと流され知人は何処

早坂保文(宮城県)

・福島県にも同じ人が居ます。本当に切ない。鈴木義雄(福島県)・香川県は災害の比較的少ない県でもいつか来ると思えば他人事とは言えません。少しのかけらでも見つかるといいな……。お心大切になさってください。佐伯セツ子(香川県)・東日本大震災の苦悩は決して忘れてはならない。折にふれ、同様の句を投じてほしい。筆者の知人を思う気持ちが切ない。坂元正憲(東京都)・七年半も過ぎたのに、つい昨日の様に思い出しました。知人を案じるお気持ち伝わりました。張山てる子(東京都)

◎川柳部門  
155 見得を切りシラも切ります永田町

橋本世紀男(東京都)

・その通りですね。本当のこと言っほしいです。小山恵美子(大阪府)・アンケート「人格が信用できない」の最多の人が総理大臣です。奥那於子(大阪府)・国会中継を視聴して同感。安倍一強政治をズバリ。久本に地(岡山県)・本当に質の悪い人が多くいます。国民に目を向けた人が多くなる事を希望しています。井上氣海(広島県)・この国はこれからどうなるのでしょうか。中林恵子(大阪府)

163 核持って北鮮持つなどいじめつけ

守屋高雄(岩手県)

・核を持っている国は勝手な事ばかりしてですね。勿論、北朝鮮も目にあまりますが。細川光子(栃木県)・核保有国の身勝手、無責任、核兵器全廃すべし。阿部至(埼玉県)・世の中理不尽な事がありますよね。久保壽雄(北海道)

◎フォトイック部門



185 小春日や異人の双児鳩と遊ぶ

山崎吉晴 群馬県

・双児とは良く観察しているなアと感心しました。鏡たか子(山形県)

196 鳩ぼっぽ平和って素的だね

星 一子(神奈川県)

・鳩に勝たせて、平和がやってくる。未来志向が良い。白松いちろう(千葉県)

◎他にも

2 顔中が綿菓子となり秋まつり

環 順子(東京都)

6 どんぐりに遠き記憶を拾ひけり

内河邦久(東京都)

46 朝顔の高さいろいろソファミレド

天野輝子(東京都)

71 悠久の大河かがやく大花火

宮崎見昭(埼玉県)

86 霧の街啄木の歌碑雨情の詩碑

堀田寿美子(北海道)

95 新米のとぎ水ゆつくり流しをり

藪原保子(東京都)

97 杭一つ争ふ塩辛とんぼかな

村山徳英(埼玉県)

108 横たはる牛に遊ぶや夏の蝶

本間 進(新潟県)

121 暑き日も経営栄養を受け乍ら脳腫瘍の娘逝きて八年

中田妙子(東京都)

144 臥す姉の部屋暗ければ窓を開け合

わせ鏡に鯉幟見す

153 神様の蹴鞠の逸れて流れ星

夏井寛治(新潟県)

231 ハト君やおまえも金髪好きかえ

仁藤ひろじ(埼玉県)

233 さあおいでボクの背中で空飛ぼう

阿部徳夫(宮城県)

※今後もふるってご投稿をお願いいたします！

Q

前回のアンケート  
今年買って  
一番後悔したものは？

(ここに書いて水に流しましょう)

・ゴルフセット。ものよりも技が問題のようです 原 崇雄(埼玉県)  
・ゴルフシューズ。美しさに迷って買いましたがしまったまま 平山千江(岩手県)

・ゴルフの「ドライバー」使いこなせなかった 上村元義(神奈川県)  
・水着を買いスポーツクラブに行き運動したが、三日坊主に終わってしまった 三津木俊幸(千葉県)  
・安物のかばん。やはり高くてもかっこいいのいい 高橋登志子(新潟県)

・衝動買いのリュック。ふだんは以前からのリュックを使用して買ったリュックは物掛けの飾りになっている 長峰正晴(千葉県)  
・通販のカバン。家族に隠してあります 木村 舂(山形県)

・バッグ。すすめられるままに買って赤字 富樫和子(山形県)  
・財布。入れるお金が無くなりました 梶 鴻風(北海道)

・靴。買うときは感じがいいのですが使い出すと気に入らない点が多々 寺内 侘(埼玉県)  
・ファスナーで閉める靴。片方の靴のファスナーが駄目になり下駄箱に入れて放置している 間森 坦(兵庫県)

・海外ブランドの長靴。雨の日にロータリーのタイルですべてころびうになった。雨の日に履けない 有島和子(東京都)

・靴。一回はいて右足いたむ 中野勝子(鹿児島県)  
・主人のための黒い靴、自転車踏み。娘が買ってあげたが足を入れる事なく踏む事もなく両親の元に行ってしまった 佐伯セツ子(香川県)

・前に買った長ぐつがブカブカで1サイズ小さくしたつもりが同じサイズだった 井上静夫(栃木県)  
・ステップウエル2と云う健康機具。大き過ぎて置く場所が決まらず箱の中 片山茂子(埼玉県)  
・ぶらさがり健康器。場所を取って邪魔。家族たちにおこられています 野木宗信(奈良県)

・足もみ器を母の為に買いましたが、97才の母入院となりました 甲斐睦子(鹿児島県)  
・超音波のマッサージ器。接骨院に通っていて全く使わずじまい 阿部澄江(宮城県)

・電動ハブラシ。掃除がめんどくさく、あきらめる 山田楽山(埼玉県)  
・スパーで納豆をカゴに入れ、その事を忘れて買った物の最後にまた納豆を買った 若月理依子(新潟県)  
・ダイエツト食品 環 順子(東京都)  
・食品の期限が切れたこと。たくさん同じ品を買ったから 松尾正一(岩手県)

・通販のくだものシリーズ 青木延子(埼玉県)

・モンテスラ。どんどん成長して困っている。置き場所、水やり、手入れが大変 井原毬子(東京都)  
・菊の大きな鉢植えを3株買いました。台風で見事に吹き飛ばされました 坂元正憲(東京都)

・娘が買ってくれた八重山桜の小さな木をこの夏の暑さで枯らしてしまっ た 古閑智子(神奈川県)  
・大南瓜の苗一本(五ヶ位の実) かくて切るのが大変。来年はミニ南瓜にしよう 田中豊恵(新潟県)  
・南瓜の苗、栗かぼちゃ。私のきらいな、ぺちゃぺちゃ南瓜 黒澤正行(福島県)

・立って刈る草刈りばさみ。さつさと刈れるとありましたが刈りにくいこと 津田忠彦(岡山県)  
・草刈機、自分の足もとが危く使えません 日名子春実(群馬県)  
・残る物は購入していないが、草取りを区に頼んだら高額だったこと 天野輝子(東京都)

・散水ホースリール。長すぎて良し悪し 青木涼子(埼玉県)  
・いつもながら三百円しか当たらない宝クジ 中川義彦(新潟県)  
・宝くじのまとめ買い。お蔭で毎食のおかずが三品は減った 松田重信(埼玉県)



・4Kテレビ。既に始まっているかと急ぎ求めたが、放送はこれからだとか 白松いちろう(千葉県)  
・パソコン。勉強に行きましたが、途中でやめて使いこなせなかった 杉原明子(静岡県)

・パソコン。今だに使いこなしが出来ない 濱田イサオ(福岡県)  
・余り使わないノートパソコン 椋本望生(大阪府)  
・ラジオ。テレビばかり視聴してしまっ た 居原田暹(大阪府)  
・壊れたと思いきや買った電子辞書。実は壊れてなかった 近藤薫也(千葉県)

・電子辞書。使いにくく直ぐ孫へ 内河邦久(東京都)  
・軽量小型クリーナー。ドラムの音が大きいので倉庫へ 中山日出子(大阪府)

・電動カミソリ器(肌があれて今は手動にもどる) 鈴木義雄(福島県)  
・ICレコーダー。イヤホン使用で耳の聞こえが悪くなったようです 宇都木安子(東京都)

・妻のカジュアルパンツ。背はつままるがウエストは増える、ウエストのゴムが強くて使えなかった 仁藤ひろじ(埼玉県)

・2足入りや3足入りのくつ下。やはりバーゲン用に出てくるように思う 井田由利子(宮城県)  
・オーブンシャツ。最近のシャツは袖丈が長く出来ているので、Mサイズを買ってみたが、これでも長過ぎて失敗 長谷川庄二郎(千葉県)

# a Questionnaire



- ・バーゲンセール服、着ない内に夏も終りに 高松玲子(埼玉県)
- ・バーゲンでアラスカへ着て行くような防寒着を。北海道へも行けません 奥 那於子(大阪府)
- ・ブラウスの同じデザインの色違い二枚 堅田秀子(東京都)
- ・ブラウス。大きすぎて失敗。和服なので洋装えらびはいつも失敗 橋本良子(埼玉県)
- ・ブラジャーつきTシャツ。厚くて、かわきにくくて、ぬぎにくい 豊田智慧子(新潟県)
- ・フリーマーケットの古着 溝畑美代子(埼玉県)
- ・リバーシブルのコート。車での移動が多いのであまり着る事がないので 小澤円梨(静岡県)
- ・衣替え用の夫の服。やはり採寸、夫の希望、好みを聞くのだった！ 合田浩子(茨城県)
- ・遠赤外線下着。少し太ったせいか窮屈になりました 守安幹男(岡山県)
- ・夏帽子。旅好きも体調くずしてそのままに 藤井春三(埼玉県)
- ・買った洋服すべて。齢をとると似合うものがなくなるのかも 今井勝子(新潟県)
- ・通販で買った服の色が思っていたより派手でガックリしました。一度も手を通さず 西山知子(岡山県)

- ・正月に買った福袋。着ない服ばかり 岩田 信(神奈川県)
- ・孫の衣類。やたら買込みしかられました 稲葉民雄(千葉県)
- ・通販で白い服。白いのに暑いので夏に着れず袖がないので今も着れません 小山恵美子(大阪府)
- ・背広が若すぎた 土屋喜雄(山梨県)
- ・補聴器。安物はダメです。耳の悪い人は淋しい人生です 山崎吉晴(群馬県)
- ・入院中、息子に買って貰った補聴器が耳にうまくフィットせず失敗 吉村充治(埼玉県)
- ・補聴器3個目。すぐ壊れる 浦橋克行(兵庫県)
- ・車椅子。のる体力が無くなり、ベッドでの生活となりました 阿部徳夫(宮城県)
- ・爪切。代りに電動でこすって切るという物 倉沢ひとみ(静岡県)
- ・ぶ厚い小説まだ一頁もめくってません 坪田勝秀(鹿児島県)
- ・好きな本を貸し、なくしたかと思いつい書店に注文して買ったら、古いカバーをかぶって本棚の奥にあった 石原 岳(群馬県)
- ・積ん読「般若心経」 津布久信雄(東京都)
- ・同じ本を二度買う「本棚にある同じ本買う迂闊」 目黒豊光(福島県)
- ・夫の勝手に買った本 白戸麻奈(東京都)
- ・ハズキルーペ。老眼なのでかけても見えづらいので娘にあげました 関原幸子(東京都)

- ・H&M. 思ったより駄目でした 青木ケン子(埼玉県)
- ・通信販売の老眼鏡と組合せの黒の短靴、余り使っていません。息子ももらってくれません 神 一男(静岡県)
- ・通販で買った拡大鏡。度数が全く合わず、ぼやけが拡大…迂闊でした 小林七重(新潟県)
- ・ツアー旅行で洞爺ウインザーホテルを申込み、入金するも二度とも人数がまとまらず中止に 久保壽雄(北海道)
- ・日帰りバスツアー旅行券、あたりはずれがおおすぎました 北野耕兵(千葉県)
- ・アルバム。写真の整理がつかなくて部屋の隅に 本間 進(新潟県)
- ・シヨッピングカー。大きすぎて旅行に行くような感じになり一度も使わず部屋の隅に 高崎登喜子(東京都)
- ・ジャズ風にアレンジした「マドンナの宝石」などが入ったCD。ジャズ風がなじめなくて 中村康浩(福岡県)
- ・針なしホチキス。ほとんど役にたちませんでした 関山恵一(神奈川県)
- ・18金の指輪の時計見にくい！ 吉里ひとみ(東京都)
- ・「うまれて！ウーモ」。空き部屋のおき物に…忙しくて言葉も覚えず、ただのぬいぐるみのままに 大橋絵代(千葉県)
- ・クッション、大きすぎて邪魔になる 高垣勝代(大阪府)

- ・脚立を買ったものの、殆んど椅子で済んでしまふ場所塞ぎになっています 大阿久雅子(埼玉県)
- ・テレビ台。家のリフォームの時作ってもらったにもかかわらず買う。粗大ゴミに出しました 渡部美代子(山形県)
- ・ポケットティッシュ。安い物、気が進まぬ物を安価だけにとらわれ買った 湯浅暉子(石川県)
- ・印画紙、直後にプリンターがあの世へ 中川三郎(東京都)
- ・化粧サンプル。あまり効果がなかった 有田裕子(北海道)
- ・株も投資も 望月謙一(東京都)
- ・救急袋詰。持て余し気味 有坂馨園(福島県)
- ・傘を買ったが、あまり使う事がない 松田義登(福岡県)
- ・手帳。友人からもらったから 五味田幸夫(東京都)
- ・小さすぎたメガカ用の水槽 湯浅芳郎(岡山県)
- ・窓のブラインド。光の調整、風の方角等よい面も多いが掃除が大変 夏井寛治(新潟県)
- ・付録にだまされて買った雑誌。医院の待合室に 石尾曠師朗(東京都)
- ・車を売却。28インチの自転車に替えたが足の方が10センチ短いのを知らず… 青木日出男(群馬県)



## 編集室だより

生きているといろんなことが起こります。一日の中でもあんなこと、こんなこと、ほんといろいろとありますね！ そんな日常に転がる喜怒哀楽を、編集室よりお届けします。

### ●11月28日、写真自分史 第一号完成！



先月の喜怒哀楽に同封した写真自分史のチラシに「ちょうど今、写真の整理をされていて結構捨てたのよ。いいタイミング！」といち早く反応くださったお客さま。その写真集が、この度完成しました。途中、確認のゲラを返送くださった際のお手紙には「手にしてビックリ。点と点の出会いにまとまりが生じ、まさにかけがえのない人生の軌跡がくっきりと。たいした企画力・編集力です。期待以上でしたよ」と書かれていました。

2冊のうち1冊は長年来、同じ仕事で苦楽をともにしてきた親友へのプレゼントとのこと。その方がその写真集をもらった時を想像すると…!!こちらも自然と笑顔になります。生きてきた道りを互いに称え合う、何よりのクリスマスプレゼントになりますよう。

### ●お客さまオリジナル ポストカードをお手伝い

ある日、ポストカードを作りたいということで、ご自身の描いた絵を持参されたお客さま。裂き織りで編んだ素敵なお洋服をお召しで、その裂き織りを絵に配した素敵なポストカードでした。

ご自宅にうかがったところ、ちょうど裂き織りを習いにきている親子に遭遇。向かい合って、陽だまりの中で機を織る姿は、一幅の絵のようで、とても豊かな気持ちになりました。



### ●『石川雲蝶伝』発売中

石川雲蝶とはその多才さゆえ「日本のミケランジェロ」と称される江戸末期に活躍した彫刻師。この度、『石川雲蝶伝』を出版されたこうじまちとらさんが来社されました。本書は前半が小説、後半が漫画によって構成されているのが特徴で、雲蝶が越後に来た理由や婿養子となった経緯などがエンターテインメント性豊かに描かれています。

『良寛伝』に続く第2弾となった本書はB5判428ページと、かなりのボリュームで読みごたえ十分。1600円+税。お問い合わせは当社まで。



▲デザインの仕事をされていた、作者のこうじまちとら様

### ●「喜怒哀楽」応援

ありがとうございます！

前号（10 - 11月号）1ページ目にしたためた「喜怒哀楽」への想いに共感をくださる方が多く、感激です…！また、無料化ということで、多くの方から「大丈夫？」「有料のままでもいいのに…」というお声、温かいカンパも頂戴しました。そして、応援したいけど、どうすれば？という有難いお問い合わせもいただきました。「喜怒哀楽」が皆さまの広場であり続けられるよう、基金のようなものをつくらうかと現在考えています。

### ●年賀状の季節

この時期、ポツリポツリとご発注いただくのが年賀状。毎年、石仏の写真を入れる方、寺社仏閣の写真を入れる方、縦書き、横書きと様々です。お客さまから年賀状をお預かりして1枚ずつ印刷する場合がありますが、意外に知られていないのがハガキ4枚が1枚になっている年賀状。1枚印刷すると4枚の年賀状ができあがるという優れもの。JPさんで売っています。ただこの難点は1枚ミスをするると62円ではなく248円の損失になること（涙）…！





## 一人三役の作家 長谷川海太郎

伊豆名 皓美

隻眼隻腕の剣士・丹下左膳が活躍する時代小説のシリーズは、これまでに何度も映画化、テレビドラマ化された人気作です。近年では歌舞伎俳優の中村獅童が演じました。作者の林不忘の本名は、長谷川海太郎（1900～1935）です。

海太郎は、新潟県佐渡郡赤泊村（現・佐渡市）に生まれました。父清（のちに淑夫と改名）は、当時佐渡中学の英語教師で、北一輝も指導しました。母由紀は短歌に造詣が深く、のちの函館短歌界の草分的な存在でした。父が北海新聞主筆に招かれると、海太郎が2歳のときに一家で函館に移住し、同地の弥生小学校へ入学しました。一時佐渡の母親の実家に戻り、羽茂小学校に通いましたが、再度函館に戻りました。

海太郎は、両親の影響を受けて早くから詩歌に親しみ、文学を愛読しました。当時の函館は国際色豊かな湊町で、海外への憧れを抱き成長したといいます。函館中学校に入学しますが卒業の直前、ストライキ事件により退学し、後に上京して、明治大学専門部法科を卒業しました。1918（大正7）年、アメリカの大学に留学しますが、資金難のためすぐに退学し、職を転々としながら放浪しました。当時のアメリカは自動車や家電製品が普及して生活様式

が一変し、野球や映画、ジャズなどの新しい文化が隆盛を迎えた時代です。海太郎はアメリカの自由な空気を吸うと同時に、その社会の明暗をつぶさに見聞しました。

貨物船の船員として帰国した海太郎は、雑誌『新青年』主筆の森下雨村と知り合いました。森下の勧めで、7年間に見聞きしたアメリカのルポを谷譲次名で同誌に発表、「めりけんじやつぷ」シリーズとして連載しました。続いて牧逸馬の名で犯罪実録小説や怪奇小説の翻案などを執筆しました。なかでもグローバルな視点に立った世界怪奇小説は、今もって新鮮さを保っています。そして林不忘の名では、時代小説を連載しました。代表作『丹下左膳』シリーズは連載中に最初の映画化がなされ、大河内傳次郎の主演作をはじめとして何度も映画化されました。やがてイメージが先行して後を追う形で原作が読み継がれ、不朽の名作となっています。林不忘の時代小説はいずれも特異な性格を持ち、新風を吹き込んだ作品として注目されています。海太郎は、それぞれの筆名でヒットを飛ばすおそろべき人物だったのです。

海太郎は、結婚を機に妻和子とともに暮らし始めた鎌倉で、ペンネームごとに3つの書齋を持ちました。林不忘としては着物、谷譲次・牧逸馬としては背広、というように、執筆時の服装も変えていたといわれています。海太郎は、10年間の作家活動の大半を鎌倉で行いました。寝る間も惜しんで書き続けましたが執筆中に倒れ、連載を抱えながら、35歳で夭折してしまいました。



▲長谷川海太郎

### 【展覧会情報】

企画展示「ボーダレス文学世界 大衆文学編」

会期：11月23日（金・祝）から1月20日（日）

休館日：月曜日（祝日の場合は翌日休館）、12月28日～1月3日

「食楽句楽のすすめ」の執筆者・岩田桂さんは、岐阜県生まれ、新潟市在住の元大手企業の企画マン。

畑を耕し、俳句の主宰をつとめ「食楽句楽」を実践しつつ

人生のセカンドステージを満喫されています。

食と俳句とのコラボレーション、当意即妙のエッセイをご賞味ください。



## 癒し系の牡丹鍋に感謝す

岩田 桂

牡丹鍋（冬の季語）とは関西地方で好まれる猪肉の鍋料理のことです。別名「猪鍋」とも言います。水は一切使わず、白菜、春菊、葱とコンニャクを土鍋の底に入れ、その上に肉を乗せ、ミリンと酒で溶いた味噌を加えて蒸し焼きにします。独特の匂いを消すために、味噌で味付けするのがポイントです。

丹波笹山や京都の八瀬、大原、鞍馬あたりに専門で食わせる店があります。三〇〇〇円もあれば腹一杯になります。

時折、店の玄関の軒に、大物の猪の毛皮がぶら下がっています。猟解禁で獲れた地元の猪です。しかし最近規制が厳しくて獲れなくなると、地元の漁師は嘆きます。

牡丹鍋とは、唐獅子牡丹をもじった隠語だと言われています。大皿に飾られて出てくる猪肉はまさに、ピンク色の牡丹のようにきれいです。「牡丹が咲いた、牡丹が咲いた、ピンクの牡丹が、さみしかつたボクの鍋に、牡丹が咲いた！」と、思わず口ずさんだりします。

ちなみに馬肉は「さくら鍋」、鹿肉は「もみじ鍋」などと洒落た名前がつけられています。熊鍋はさしずめ「おやし鍋?」、狸鍋は「ぼんぼ鍋?」となります。しかも最近ではジビエ料理などと称されて、村おこしの起爆剤として注目を浴びています。

では牡丹鍋が一番美味い季節は何時でしょうか。それはやはり深々と心身とも寒さがくる真冬です。そして底冷えのする部屋で、窓の外に雪がくればもう格好のご馳走です。

### 一斉に荒息かこむ牡丹鍋

牡丹鍋は煮立ってくると泡がブクブクと立ち、食べごろとなります。その泡は猪の荒息で精力の素だ

と言う人もいます。

しかし猪だけが荒息なのではありません。鍋を囲む面々も一斉に鼻息が荒くなり、目が血走ってきます。「遅れを取ってなるものかあ」と、会場が修羅場と化します。

さらに鍋の世話をしてくれるお店のおやしさんの話もまた、会場を沸騰させます。おやしさん曰く「この辺の部落は、昔から夜這いの文化があり、男どもはこの猪鍋でエネルギーを付けて突入した」とのこと。

おおよそ夜這いとは懐かしい。このような部落の秘密を聞かされると、余計会場は鼻息が荒くなるではないか。もう止まらない。

それにしてもこの猪肉は独特の臭みがあるものの、食べると体がほかほかとしてくるではないか。とにかく脂身が豚系にしては甘くて美味い。そしてしばらくすると、徐々に身体の芯から効いてきた感じがしてくる。しかも一〇年前の、心の古い傷跡が疼いてくる感じです（ドキッ）。

### 猪鍋や胸に傷持つ男たち

そんな視線で回りの客を見渡すと、心に傷を持った人ばかりが、お互いの傷を舐めるように、牡丹鍋を突っ込んでいるように見えてくる（本当）。言葉少なめの二人づれの客が多い理由が、自ずから理解できる瞬間です。

孤高、寂寥、懺悔、失望感などがいかにもそれ風です。

不倫で疲れ果てた二人づれ風。

借金に追われている二人づれ風。

結婚を親から反対されている二人づれ風。

介護に疲れた認知症予備軍の二人づれ風。

女にもてない男達や、苦しみを抱えた二人づればかりです（推定です）。このような表現をしたら、

お店のおやしさんに叱られそうだが、まあ、その時はその時……

そしてそんな人たちに「お主たちも傷持ちか、因



果じゃのう！」と、励ましの一献でも差し上げたくありません。これを「牡丹鍋の激励」と言います。牡丹鍋には心の傷を癒すチカラがあるからです（納得）。しかも「牡丹鍋には、励ますチカラがある！」と、自己暗示をかければ、明日からの人生も前向きになれます。これで「葉食い」と言われ、昔から重宝されてきた訳が見えてきます。

もちろん山国の貴重な蛋白源である事には変わりないが、「癒し系」の食べ物だと気付けば、また、鼻息も荒くなれそうです。

### おのずから吐く息熱し牡丹鍋

そして牡丹鍋を食べ終える頃には、ボク達はすっかり心の傷も癒えて、また帰路につくのであります。

この猪はごく自然に村人と共存しながら、山河を駆け巡っています。また田畑の作物を荒らす名人でもありません。畑に薯などを植えるとなちまち、夜の内に食い荒らされてしまします。

その憎つき猪のために、今でも猪除けの柵をめぐらしたり、夜通し焚き火する「鹿火屋（かびや）」の習慣があります。最近では電気仕掛け柵を設けたりもします。

山間の柵田の畦から立ち昇る鹿火の煙は、遠くからも見えて、なぜか淋しい晩秋の風景となります。えっ！まだ見たことないんですって、そのあなた。それは残念です。

でもあの「カーン、カーン！」という音に出会ったことはあるはず。京都の詩仙堂や落柿舎の庭などから発せられるあの静寂を破るあの音です。猪が庭を荒らすのを防ぐ装置として、もう昔から装置されている「猪威し」です。しかも観光客には抜群の人気です。

是非、心が疲れたら、猪脅しを聞きながら、この牡丹鍋で体を暖めてぐっすり眠ってください。目覚める頃には、鼻息も荒いあなたに出会えること請け合いですから、本当ですよ。

### 牡丹鍋われ強情の血肉あり

## 第6回 井月忌の集い

漂泊の俳人井上井月を顕彰し、忌日(明治20年3月10日)に合わせて開催される井月忌の集いも今年で6回目。俳句大会に加え、映画鑑賞会、懇親会も予定されています。

- 日時 平成30年3月9日(土) 午後1時30分開始
- 会場 主婦会館プラザエフ(JR四ツ谷駅前)
- 事前投句 四季雑詠2句1組1,000円(何組でも可) 選者(予定)13名
- 投句期間 平成30年11月1日(木)ー平成30年1月25日(金)
- 当日投句 午後1時より受付、午後1時30分締切 当季雑詠2句1組 参加費1,500円(出句の有無にかかわらず)
- 問い合わせ 井上井月顕彰会 TEL: 03-3341-6975



## 俳句づくりに役立つ一冊!

本誌「喜怒哀楽」の「詠み人のリレーエッセイ」にもご執筆いただいた、俳人の山西雅子さんの著書『旧かな入門』(NHK出版)が発売されました。本書は『NHK俳句』に連載された原稿に加筆・再構成したもので、言葉のルーツを探り、瑞々しい旧かな俳句を味わいながら辞書的にも使える一冊となっています。ぜひ本書で、効率的に旧かなを攻略ください。(書店でお買い求めください)



## 第35回 吉徳ひな祭俳句賞

江戸最古の人形の老舗、(株)吉徳主催の「第35回吉徳ひな祭俳句賞」が開催されます。

- 題詠 ひな(雛) ■選者 黒田杏子
- 応募資格 中学生以下「ジュニアの部」その他「一般の部」
- 応募方法 官製はがきに作品1句を記入し(作品1点につきはがき1枚)、応募部門名、郵便番号、住所、ふりがな付きの氏名、年令(学年)、職業(学校名)、電話番号を併記し郵送。〒111-8515 東京都台東区浅草橋1-9-14 株式会社吉徳「ひな祭俳句賞」係
- 応募締切 平成31年1月8日(火) 消印有効
- 入賞発表 平成31年1月24日(木) ※全入賞者に文書にて通知。詳細は [第35回吉徳ひな祭俳句賞 検索](#)

## 第28回 にいがた俳句フェスティバル開催

新潟県現代俳句協会主催第28回にいがた俳句フェスティバルのご案内です。

- 【作品募集】 2句1組1,000円(何組でも可) 選者20名
- 顕彰 高点句は発表誌に掲載し大会にて賞品
- 発表誌 投句者全員に進呈
- 投句先 〒950-2112 新潟市西区内野町626 佐藤 彬
- 【俳句大会】
- 平成31年3月21日(木) 春分の日
- 会場 三条市東公民館 三条市興野1-13-70
- 講師 中村和弘 「陸」主宰、現代俳句協会会長
- 席題 12時発表 13時投句締切
- 参加費 1,000円

## 『ご縁ブック2018』お送りします

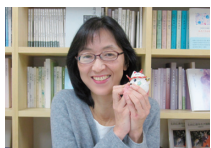
皆さまの合同の句歌集『ご縁ブック2018』。予定より遅れてすみません! 現在、鋭意製本中、12月中旬過ぎに発送予定です。残部が若干数ありますので、お早めにお問い合わせください。



### スタッフの一言

Q. 今年買って一番後悔したものは?  
※本と筆を持った招き猫を手パチリ

木戸敦子



後悔するほどの購入履歴はないもよう。強いて言えば『先延ばしは一冊のノートでなくなる』の本。なんとかしたいと思って買ったのに、先延ばしにしてまだ読んでいない!

古川久美子



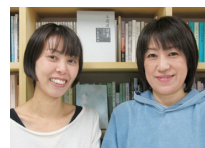
買物で後悔した記憶がない。たぶん、反省をしないのだろう。だから、きつと、同じようなものを買ってたりするに違いない。

菅真理子



今夏はじめて買ったUVリップクリーム。さぞ良いだろうと期待していましたが、塗ったらなんだか違和感が。結局ほとんど使わずさよならすることに。

披田野裕美(左)・山田民子(右)



トランポリン、ただでさえ狭いリビングを占領してしまった(披)ハズキルーベもどき。もどきはもどき...ですが、本物も使った事がない(山)★披田野から山田にバトンタッチすることになりました!

木伏美美恵



1月にセールで安くなった子ども服をこの冬に着せようと、少し大きめサイズで買ったのに、思っていたより成長し一度も着ないまま古着屋に売りに行ったら100円にもならなかった。

上村真智子



先日、通勤用のショートブーツを買った。ところが家に帰てみると去年買ったものがあってビックリ!! すっかり忘れていた自分が悲しい。

石山由希子



高1の息子の為にネットでベッドを購入。届いたものの組み立てを自宅でしなければならず息子も私も放置したまま早半年。結局彼は畳で寝ています。

吉田瞳



あまりないが唯一冷蔵庫を新調したとき、野菜室や冷凍庫の収納ボックスを購入。各種サイズを計って買ったのはまらず悔し思いをしたことかな。

佐々木祥子



しいていえば、iTunesで曲を買った後にCDアルバムを借りたら、同じ曲が入っていたことですかね。少しもったいなかったかも。



## 川柳に出会った私の不思議

やきもととももと  
柳本々々

私が現代川柳の風景にはじめてふれたのは竹井紫乙さんの句集『ひよこ』を読んだときだ。そのとき私はドトールできなこ豆乳ラテを飲んでいたので、うーん、こんな世界があるんなら私は今すぐこのドトールをでていかなきゃ、と思った。

干からびた君が好きだよ連れて行く

竹井紫乙

私は川柳のいちばん大事なところがこの句に詰まっているように思う。「干からびた君」のようにすべてが終わったとしても、「君が好きだよ連れて行く」と私を救ってくれる誰かがあらわれてくれるところだ。

もうすべてが終わったと思ったら新しい誰かがあらわれて、新しく誰かへとつながってゆく。終わるからこそ始まる世界がここにはある。川柳にはこうしたひとつの不思議な心のダイナミズム、もつといえは生きていくこと不思議が詰まっている。ひとつの不思議、愛の不思議、運命の不思議、あなたに出会った私の不思議、私がいまここに居ることの不思議。

私はそれでも世界をおそれない、ということの表明。川柳ってそういうもんだとおもう。さいごの希望なんだ。

お店から盗って来た本くれる彼

竹井紫乙

川柳はこんな風景も描く。「お店から盗って来た本」を私のために「くれる彼」。ここには想いがある。そして本屋さんの無視された思いもある。いいこととわるいことが同時にある。その「彼」に私がどう思ったかはここには描かれていない。本屋さんの気持ちもわからない。私たちにわかるのは「彼」の熱い、熱すぎる、熱すぎて犯罪まで犯してしまった

一冊との出会いがその人の行方を決めることがあるのですね。出会いの不思議。不思議にあふれた人生。永きにわたり24名の方に「執筆いただいたこのコーナーも今回が最終回となります。72篇のエッセイの何篇かが心に届いていますように——。

気持ちだけだ。

それがいいことなのかわるいことなのかは私たちにゆだねられている。たしかに盗みは間違っている。でも愛のかたちにおいてはここにはなんらかの正しい量がある。そういう瞬間に私たちは立ち会う。ある愛の風景に。川柳は希望だけでなく、愛も描く。

すべり台死ぬ子生きる子登ってく

竹井紫乙

愛や希望だけじゃない。川柳では、ちゃんと死も描く。すべり台には、「死ぬ子生きる子」がのぼっていく。私たちは明日死ぬかもしれない。あさって死ぬかもしれない。きょう生きていく。あす生きていく。なんとなく見過ごしていることを、言い直す。川柳は死から眼をそらさない。でも生からも眼をそらさない。どっちも、おなじように、おなじ可能性としてみつめつづける。かもしれない風景として。

もう一つ世界を増やす準備する

竹井紫乙

川柳は私たちにもうひとつの世界の可能性を用意する。こんな愛も、こんな希望も、こんな世界も、こんな生きざまもありましたよね。

私が紫乙さんからもらった川柳の贈り物はそれだった。私は今すぐ本を閉じてドトールを抜け出さなきゃと思った。抜け出るとそこには川柳の荒野がある。まだなんにもなかった。だれもいなかった。紫乙さんから「あとがき」を書いてほしいと連絡がきたのはそれから二年後だった。風が吹きはじめる。まだほんとうに、ひとりだった。

### ●プロフィール

1982年新潟市生まれ。川柳作家。2017年『きょうごめん行けないんだ』を刊行。2018年5月22日から「今日のもともと予報 ことばの風吹く 365日川柳日記(＋挿絵:安福望)」を、春陽堂書店公式リニューアルサイトにて毎日連載中。http://yagimotomotomoto.blog.fc2.com/

2018.12-2019.1. vol.101 (2018年12月10日発行/隔月発行)

●発行・印刷/株式会社ミュージズ・コーポレーション

〒950-0801 新潟市東区津島屋7-29  
TEL 025-250-9555 FAX 025-250-9550

喜怒哀楽書房 株式会社ミュージズ・コーポレーション

0120-819-395 Facebookもチェック

e-mail odp@eseihon.com / HP http://www.eseihon.com

郵便局口座番号00530-4-81370 口座名 株式会社 ミュージズ・コーポレーション

### 編集後記

前回の本誌100号に対し、本当にあたたかいお声をたくさんいただき改めて皆さまに支えられているのだと感謝の気持ちでいっぱいです。逆説的な言い方もありませんが、私たちの使命はこの「喜怒哀楽」を作ることで本をつくることでもありません。お納めした1冊で、その方を喜びで包むことであり、そのために各人の力を尽くすことです。「抱きしめたい本づくり 抱きしめたい自分づくり」。今日もお客さまから「こうやって1冊の本になることで、その時々が魅きつけてきてものすごく元気ができました」の声をいただきました。こんなに喜んでいただける仕事をしているという自負を持ち、前に進んでいきます。(木戸敦子)